



総合的な学習の時間とは

期日：令和6年11月15日（金）

会場：南九州大学都城キャンパス



はじめに

本日のキーワード①

問い

講義・演習

「総合的な学習の時間とは」

講義① 「総合的な学習の時間とは」
【30分】（10時45分 から 11時15分 まで）

講義② 「総合的な学習の時間の実践」
【45分】（11時15分 から 12時00分 まで）

演習① 「総合的な学習の時間の実践」
【40分】（13時00分 から 13時40分 まで）

演習② 「総合的な学習の時間の授業づくり」
【70分】（13時50分 から 15時00分 まで）



- (1) 「問い」とは
- (2) なぜ、総合的な学習の時間なのか
- (3) 指導のポイント

(1) 「問い」とは

ひなたの学び

ひ

ひとりひとりが 問いをもち

な

なかまとなって 学び合い

た

たかめよう 深く考える力

(1) 「問い」とは



(1) 「問い」とは

「不思議だな・・・」

「慣性の法則が関係しているのかな・・・」

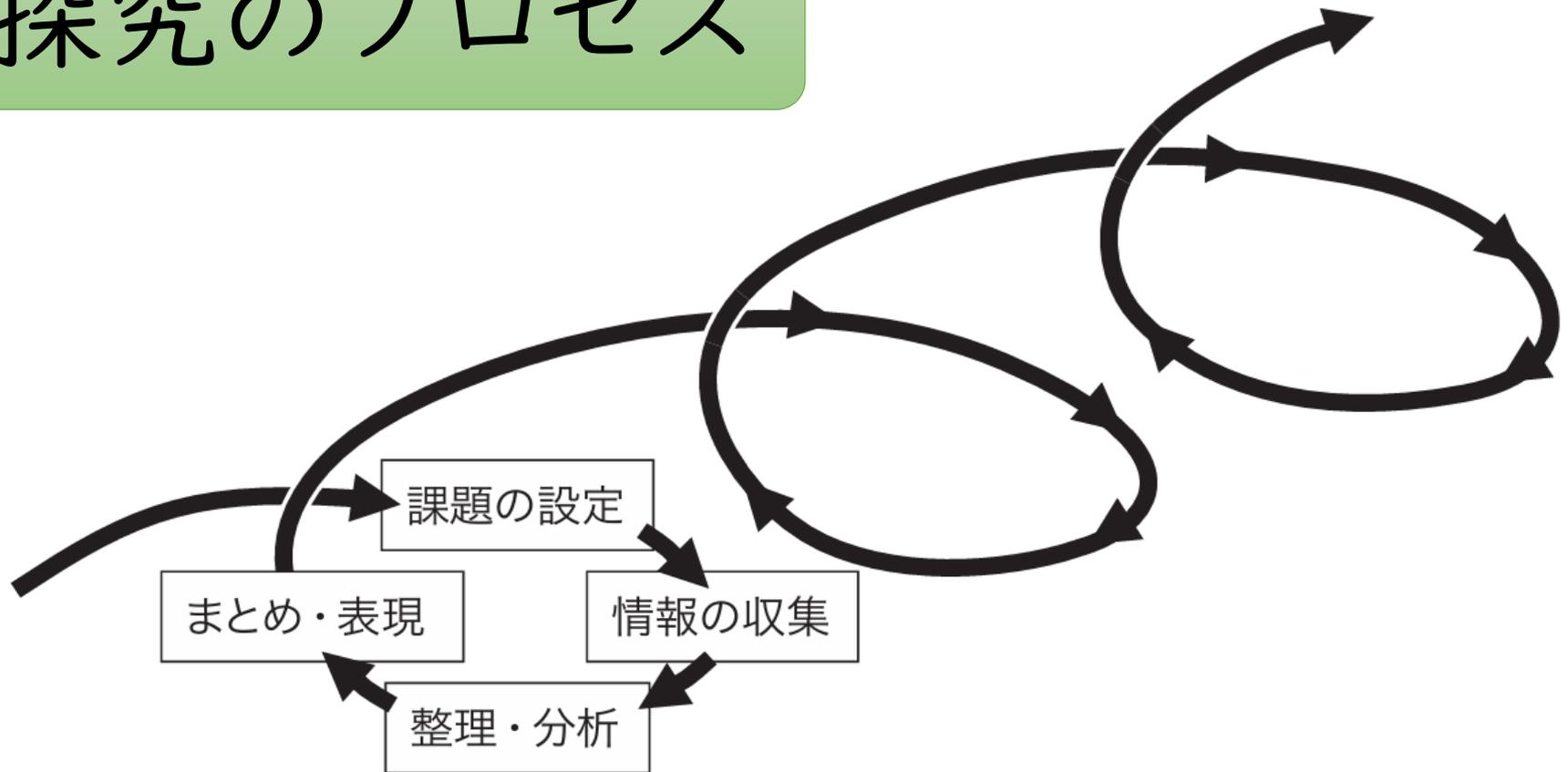
「風船と空気の違いはなんだろう」

「問い」は、ひとりひとり違う

「問い」のスキルを身に付ける

(1) 「問い」とは

探究のプロセス



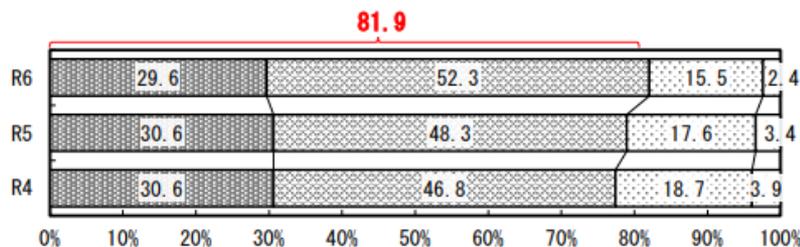
(2) なぜ、総合的な学習の時間なのか

課題の解決に向けて自分から取り組んだ

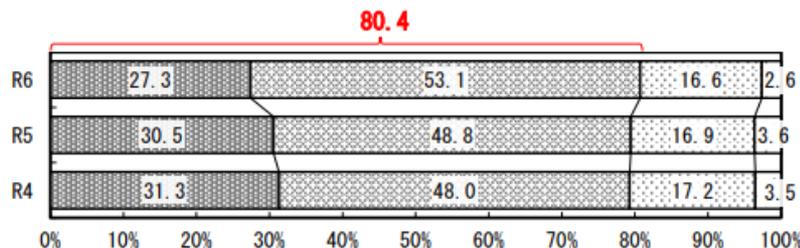
児童〔30〕 5年生まで〔1、2年生のとき〕に受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか。

■ 当てはまる ■ どちらかといえば、当てはまる ■ どちらかといえば、当てはまらない □ 当てはまらない

小学校

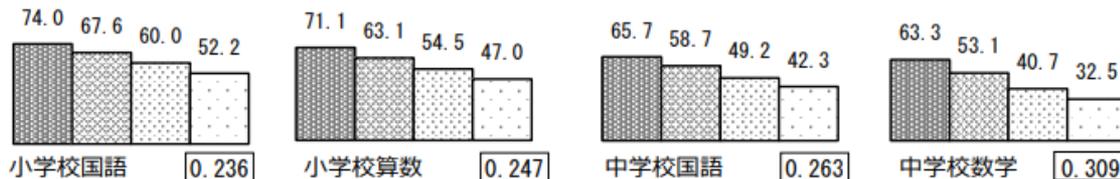


中学校



クロス集計

選択肢ごとの教科の平均正答率



主体的・対話的で深い学びに取り組んだと考える児童生徒ほど、各教科の正答率が高く、自分で学び方を考え工夫している。

(2) なぜ、総合的な学習の時間なのか

総合的な学習の時間



教科の補充学習
の時間？

行事の準備や
予行練習の
時間？

(3) 指導のポイント

学習指導要領改訂の趣旨を実現するための
具体的な学習指導のポイント

1. 学習過程を探究的にすること
2. 他者と協働して主体的に取り組む学習活動
にすること

(3) 指導のポイント

1. 学習過程を探究的にすること

①【課題の設定】

体験活動などを通して、課題を設定し課題意識をもつ

②【情報の収集】

必要な情報を取り出したり収集したりする

③【整理・分析】

収集した情報を、整理したり分析したりして思考する

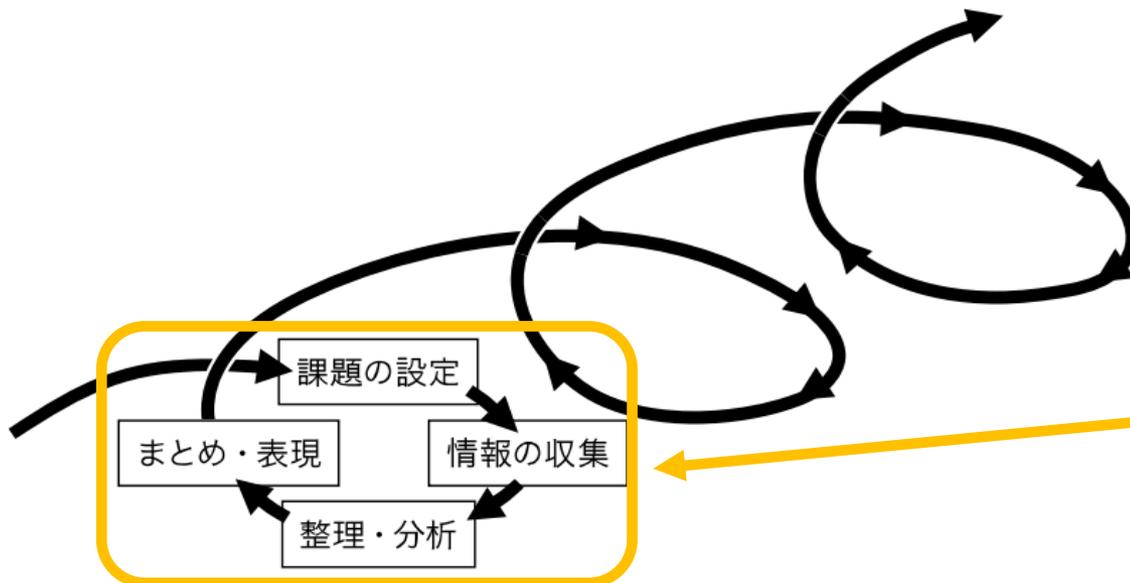
④【まとめ・表現】

気づきや発見、自分の考えなどをまとめ、判断し、表現する

(3) 指導のポイント



1. 学習過程を探究的にすること



■日常生活や社会に目を向け、児童・生徒が自ら課題を設定する。

■探究の過程を経由する。
①課題の設定
②情報の収集
③整理・分析
④まとめ・表現

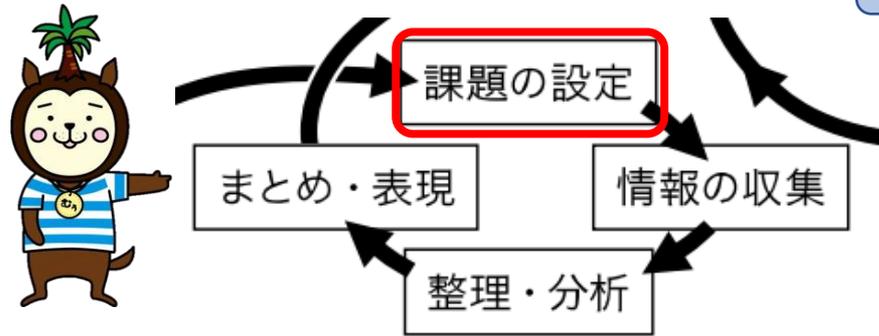
■自らの考えや課題が新たに更新され、探究の過程が繰り返される。

- いつも①～④が順序よく繰り返されるわけではない
- 順番が前後することもある
- 一つの活動の中に複数のプロセスが一体化して同時に行われる場合もある

探究的な学習における児童生徒の学習の姿

(3) 指導のポイント

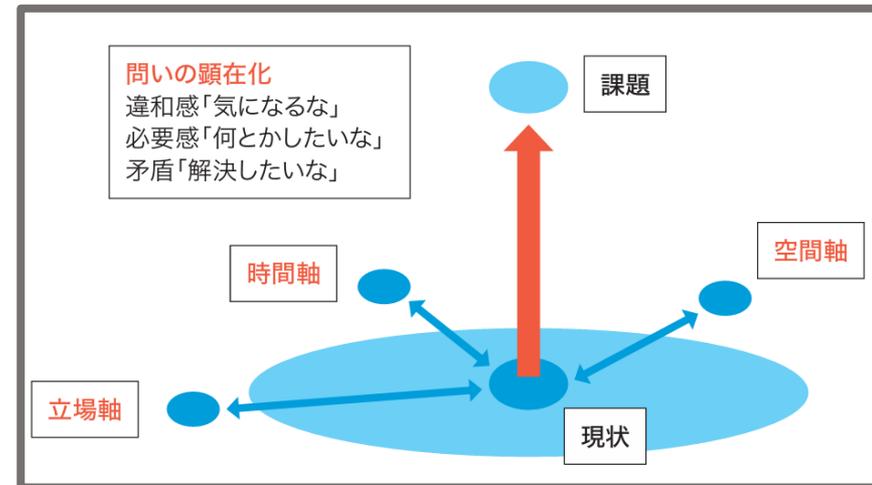
1. 課題の設定



「課題の設定」で配慮すること

- 人、社会、自然に直接関わる体験活動を重視し、学習対象との関わり方や出会わせ方などを工夫すること
- 事前に児童生徒の発達や興味・関心を適切に把握すること
- これまでの児童生徒との考えとの「ずれ」や「隔たり」、対象への「憧れ」や「可能性」を感じさせるように工夫すること

※ 児童生徒が自ら課題をもつことが大切だからと言って、**教師は何もしないでじっと待つのではなく、教師が意図的な働きかけをすることが重要**



(『今、求められる力を高める総合的な学習の時間の展開』中学校編p.29)

(3) 指導のポイント



2.情報の収集



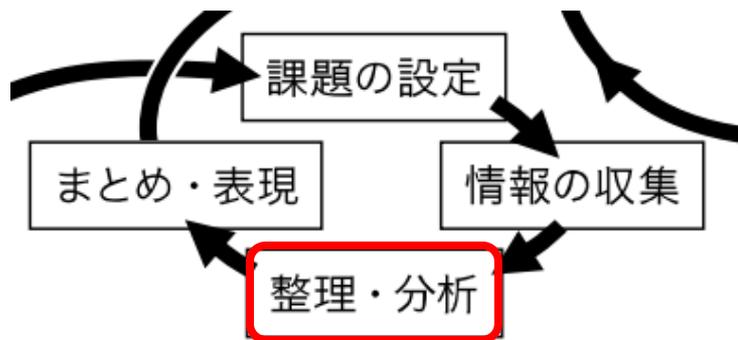
- 目的を明確にして調査をしたりインタビューしたりするような活動では、自覚的に情報を収集している
- 体験活動に没頭したり、体験活動を繰り返したりしている時には、無自覚のうちに情報を収集していることが多い

「情報の収集」で配慮すること

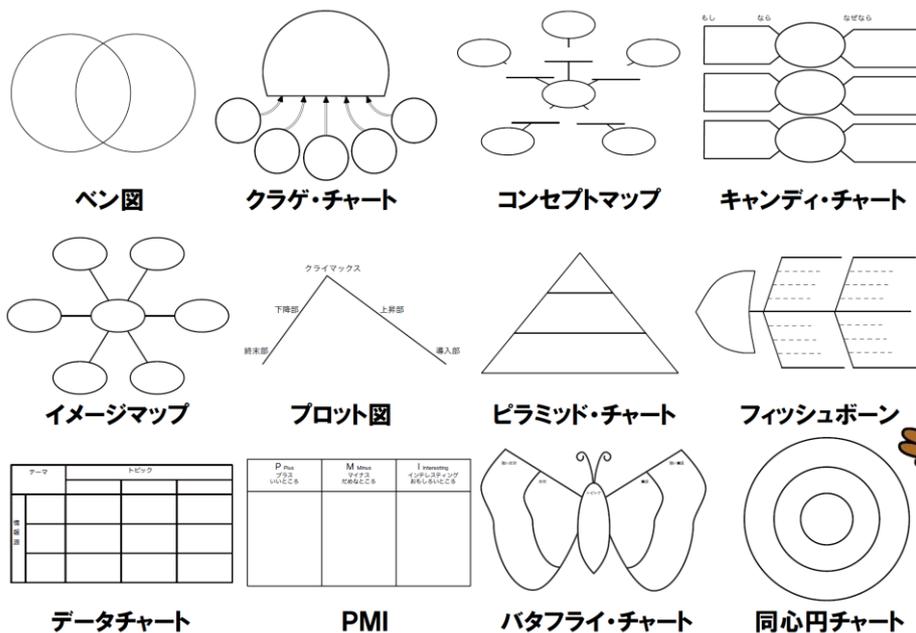
- 学習活動によって「数値化した情報」、「言語化した情報」、「感覚的な情報」など、収集できる情報の違いがあることを意識すること
- 課題解決のための情報の収集を自覚的に行うこと
- 収集した情報を適切な方法で蓄積すること
- 各教科等で身に付けた資質・能力を発揮して情報を収集すること

(3) 指導のポイント

3. 整理・分析



- 収集した情報は、それ自体はつながりのない個別なもの
- 収集した情報を比較したり、分類したり、関連付けたりして情報内の整理を行うことこそ、情報を活用した活発な思考の場面である



「整理・分析」で配慮すること

- 児童生徒自身が情報を吟味すること
 - どのような方法で情報の整理や分析を行うのかを決定すること
- ※ 「考えるための技法」を用いた思考を可視化する思考ツールの活用や各教科等との関連を図ることを意識する



(3) 指導のポイント

4.まとめ・表現



- 自分自身の考えとしてまとめたり、他者に伝えたりする学習活動を行う
- 児童生徒の既存の経験や知識と、学習活動により整理・分析された情報とがつながる
- 課題がより一層鮮明になったり、新たな課題が生まれたりしてくる



「まとめ・表現」で配慮すること

- 相手意識や目的意識を明確にしてまとめたり、表現したりすること
- 情報を再構成し、自分自身の考えや新たな課題を自覚できるようにすること
- 伝えるための具体的な方法を身に付け、目的に応じて選択して使えるようにすること
- 各教科等で身に付けた表現方法を積極的に活用すること

(3) 指導のポイント

ICTの活用

①課題の設定

グローバルな課題、ローカルな課題、情報の蓄積による個に応じた課題設定が可能
(**STEAM、SDGs、地域活性化**などと連動)

例： ネットの動画などから国内外の課題を設定、デジタルカメラ等で記録した地域の学習対象の画像や動画から課題を設定、集めて蓄えた情報を見つめることで課題を設定するなどが考えられる。その際、人や社会、自然に直接関わる活動を充実させて子供の興味・関心を喚起し、リアルな体験とバーチャルな活動とを融合しながら学習を構成していく。このような学びが**Steam、SDGs、地域活性化**など、現代的な課題の設定に結び付く。



②情報の収集

多様な情報、多量な情報、最新の情報、加工しやすい情報を、いつでも、どこでも、素早く、手軽に調査し収集することが可能

例： インターネット検索、電子メールによる質問、WEB通信アプリを利用した取材などを通して収集していくことが考えられる。その際、収集した多様な情報をコンピュータのフォルダに適切に整理・保存して、蓄積した情報の取り出しや共有が必要に応じて簡便に行えるように配慮する。



④まとめ・表現

校内のみならず、国内外への多様な発信、手軽な制作と加工の繰り返し、成果物の継続的な蓄積が可能

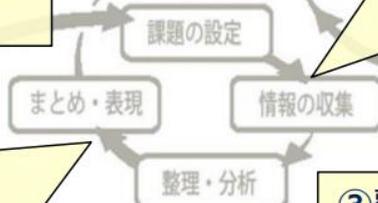
例： プレゼンテーションやビデオレター、WEBサイトによる発信、チャットボットを活用した案内アプリの作成など、情報を再構成し、自分自身の考えを幅広く伝え、その効果を検証して、課題を更新させていくことが考えられる。一人一人の端末で、手軽に加工を繰り返したり、学習の成果物を継続的に集積したりしていくことも可能となる。



③整理・分析

デジタルデータを検索、分析などして情報を再構成したり、**プログラミング的思考**を育成したりすることが可能

例： 蓄積したデータの中から必要なものを取捨選択して取り出し、表計算ソフトを用いて表やグラフに表すことやシンキングツールを使って分析することが考えられる。その際、情報を「比較」「分類」「序列化」「関連付け」するなどして、**プログラミング的思考**の育成を意識する。



※情報手段の基本的な操作の習得に当たっては、探究的な学習の過程における実際の情報の収集・整理・発信などの場面を通して習得することが望ましい。

画像出典：「ICTを活用した指導方法」文部科学省

文部科学省「生活科・総合的な学習(探究)の時間の指導におけるICTの活用について」



- ・ 探究のプロセス
課題の設定、情報の収集、整理・分析、まとめ・表現
- ・ 「問い」をもたせる工夫
- ・ 主体的・対話的で深い学び
- ・ 考えるための技法やICT活用





参考文献等

